

2017/2018 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

No	該当項目	該当する現行条文	改正提案する条文	提案理由・改正効果など	関連事項
1-①	4 試合	4.6 アウトになった選手は、持っている雪球を持ったまま、すぐに最寄りのサイドライン 又は エンドライン からコート外に出なければならない。	4.6 アウトになった選手は、持っている雪球をその場に置き、すぐに最寄りのサイドライン 又は エンドライン からコート外に出なければならない。	<p>※詳細は別紙にて補足します。</p> <p>①一昨年、このルールに変わった経緯の見解に疑問があるため</p> <p>②現日本連盟のルールも「その場に置く」であり、両方の大会に出場しているチームに対しても配慮が必要と思われるため。</p> <p>③非公式であるが全国の審判有識者の集まり(全国22名)でも、20名が同様の見解を示した(2名は保留)</p> <p>④置いて行くことに対して反則行為(下記関連事項)としてルール記載が複雑になっている点。その適用基準も「段階的に」と曖昧な表現である点。</p> <p>国際雪合戦連合主催大会は唯一、昭和新山国際雪合戦である事を考えると、ローカルルールとしての考え方は「弾力的に適用」では雪合戦競技のトップ大会競技ルールとしての威厳にも関わるとは考えます。</p>	<p>7.2.2 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為(※ただし、本規定の適用方法については当面の間、大会主催者の判断に基づき弾力的に適用できることとする。)</p> <p>改訂(補足説明別紙) 7.2.2 アウトになった選手が、直接手渡し、補給した場合 (チームに警告)</p>
<p>●ご提案の規定は一昨年の改正で導入したのですが、2年間継続した検証結果も踏まえ、運用上の難しさも考慮し、ご提案に準じて「アウト選手は持っている雪球を持ったまま」という規定を削除します。 なお、アウト選手が直接手渡しした場合は受け取った選手をアウトとし、アウト選手が意図的に補給した場合はチームに警告としています。</p>					

2017/2018 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

2	5 勝敗	<p>5.1.2 次のチームは負けとする センターラインを越えて(※2)4人以上の選手が相手コートに入ったチーム</p> <p>※2 ●相手コート内に4人以上入っているかどうかの判断において、アウトになりコート外に出た(4.4.6を準用)選手は含まれません。</p>	<p>※2 ●相手コート内に4人以上入っているかどうかの判断において、アウトになりコート外に出た選手とは、<u>完全に両足がコート外に出た状態をいう。</u></p>	<p>現行の記載では、ラインをまたいでいる状況でも、外に出たこととなります。また飛び越えて空中にいる状況では判定できない訳です。これまでの大会でも疑問の残る判定がありました。現行の表記で継続するのであれば、ルール表記どおり、審判が出た状況を確認し、4人目の判定ができるのかが、疑問です。シェルターの影になり、足元を認識できない場合などです。4. 4. 6のラインに関する見解の統一は理解できますが、足や体の一部など複雑過ぎます。</p> <p>4人目の侵入判定が、得てしてセンター侵入判断のみで行われているケース多い為4.4.6を通すのであれば、下記の関連事項として審判動作への追記が必要であり、副審の見るべき位置やポイントについても審判講習を含む審判指導が必要と考えます。ガイドライン審判動作への補足も必要かと。⇒ 4人目の侵入と同時に、コート内の人数を確認する が必要と考えます。</p>	<p>6.6 セットの終了 (追加)6.6.3 試合中4人目が相手コートに入ると、確認できた時点で終了となる。 9.5.1 セット終了の合図(主審) (追加)9.5.4 主審は4人目が入った時点で、<u>コート内の人数を確認し、試合終了を知らせる。</u> →確認しは、日本連盟現行ルールでも追記記載されている補足の一文です。このコート内の<u>人数を確認し</u>があれば 4.4.6の見解でもルール上は筋が通ると思われませんが、実際の判定では、空中の状態や、ライン上の判定など、現実的な定義とは思えません。提案の※2の条文と併せての改訂が必要と考えます。</p>
<p>●ご提案の規定については、昨年、パブリックコメント意見を踏まえて「ラインを越える行為」の判断基準を一本化したところであり、再びそれを細分化することは適当ではないと判断し、見送らせていただきます。 なお、試合終了前に「コート内の人数を確認する」旨を追記するご提案については、あえて記載が必要という判断には至らなかったため、見送らせていただきます。</p>					

2017/2018 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

3	6 試合の流れ	<p>6.4.1 主審が試合を中断しなければならないと判断したとき、および副審からの中断の通告を受けたとき、主審はただちに試合を中断する。</p> <p>6.4.2 副審は試合を中断しなければならない状況が発生したときただちに主審に中断を通告する。</p>	<p>6.4.1 主審は試合を中断しなければならないと判断したときは、ただちに試合を中断する。</p> <p>6.4.2 副審は中断しなければならない状況が発生した場合には、<u>中断の合図をし試合を中断しコートに入り選手を制止する。</u></p>	<p>提案理由はフラッグ奪取時の中断の流れの整理のためです。最初に審判がフラッグ奪取時に合図を出した場合は、基本的には勝敗が決定することの確認を行ってほしい。フラッグ奪取の合図が出てからの主審からの中断合図→審判集まる→協議→実はあたっていました→フラッグ奪取無効でした→再開します という流れはおかしいと思われる。フラッグ奪取の合図はアウトコール以上の重要性があると思われ、試合を決定するぐらいの意味があると思われ。なので完全な合図が出せない状況であれば、中断をかけて審判団で協議がよいかと思います。よって現状の主審のみの中断の合図ではなく、副審も通告(どのように主審に伝える方法もきまっていないような……)するのではなくただちに中断を行うとしたほうが、判断までのタイムラグも少なくなり、当該審判以外の審判・選手にも中断が伝わりやすいかと思います。</p>	<p>9.4.6 中断時の合図</p> <p>9.4.7 フラッグ奪取の合図(副審)</p> <p>9.4.8 フラッグ取得時は副審の合図を確認し、試合を終了する。全員アウト、4人目進入時も同様に試合を終了する。</p> <p>上記に関連・中断しなければならない判断・状況についてケーススタディを行っていただきたい。</p>
<p><b>●ご提案については、中断が必要な場合に余計なタイムラグを生じさせず、適切に運用するうえで有益と判断し、ご提案に準じて関連規則を改正します。</b></p>					